

大 雪 山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2019年7月～2020年6月の発表履歴

変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------	----------------------------

○2019年7月～2020年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～9）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2019年8月26日から28日にかけて実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口はこれまでと同様、複数の噴気孔で、噴気温度が100℃以上の状態が継続していました。赤外熱映像装置による観測では地表面温度分布の状況に変化はありませんでした。また、2020年2月5日に実施した上空からの観測（第一管区海上保安本部の協力による）では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の状況や地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-②）

2019年7月16日に火山性地震が一時的に増加しましたが、その他の期間は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

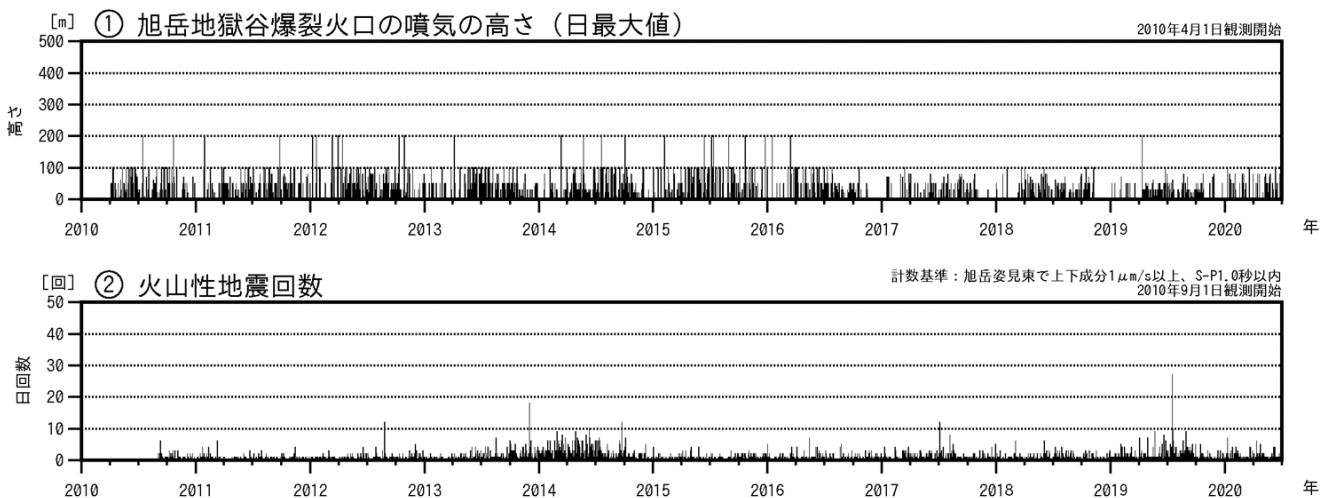


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2020年6月）

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

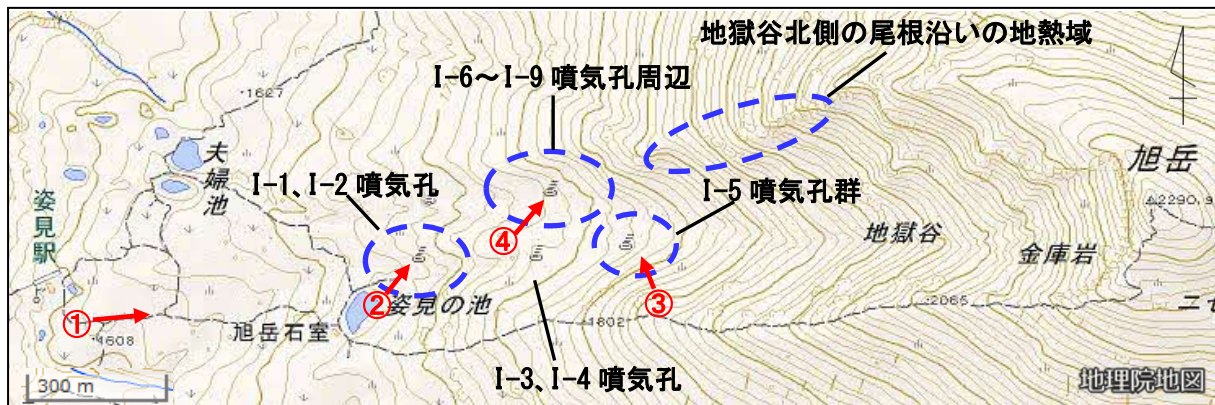


図2 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の主な噴気孔等の位置（破線囲み）および写真の撮影方向（矢印）

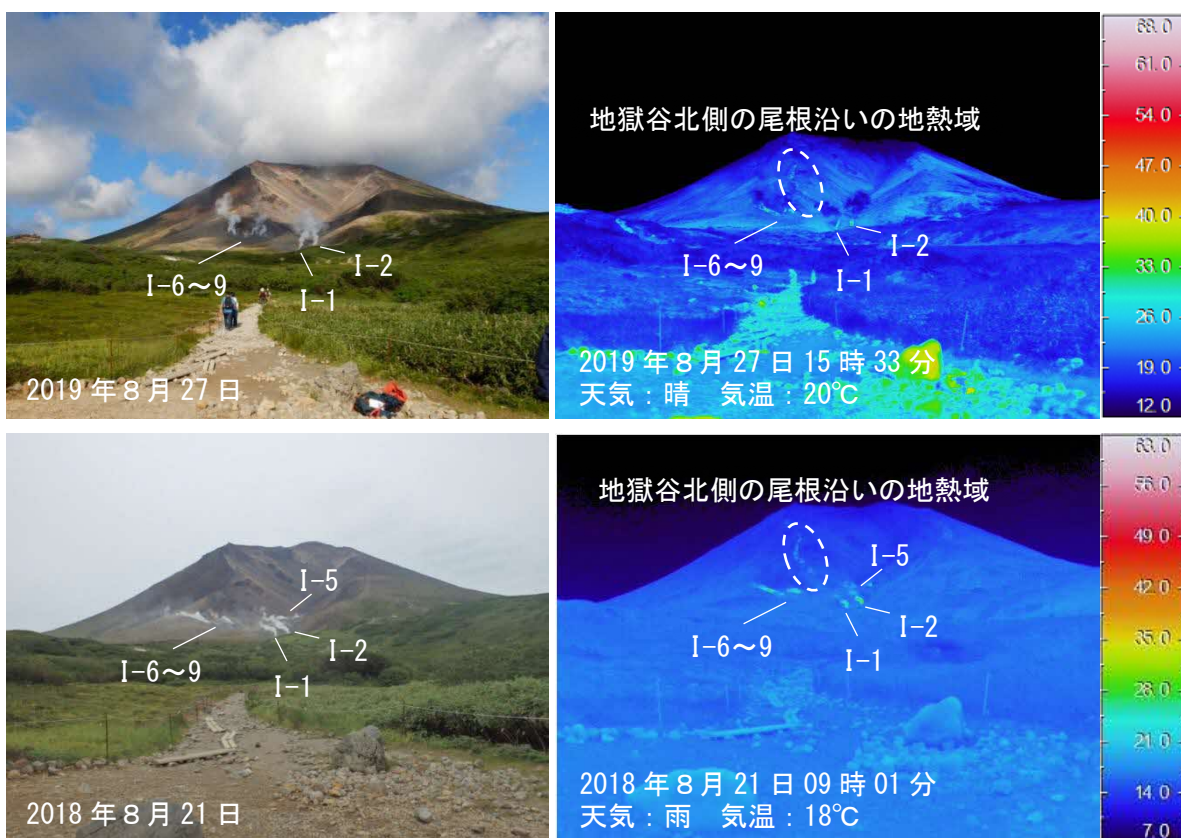


図3 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
西側（図2の①）から撮影
・地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

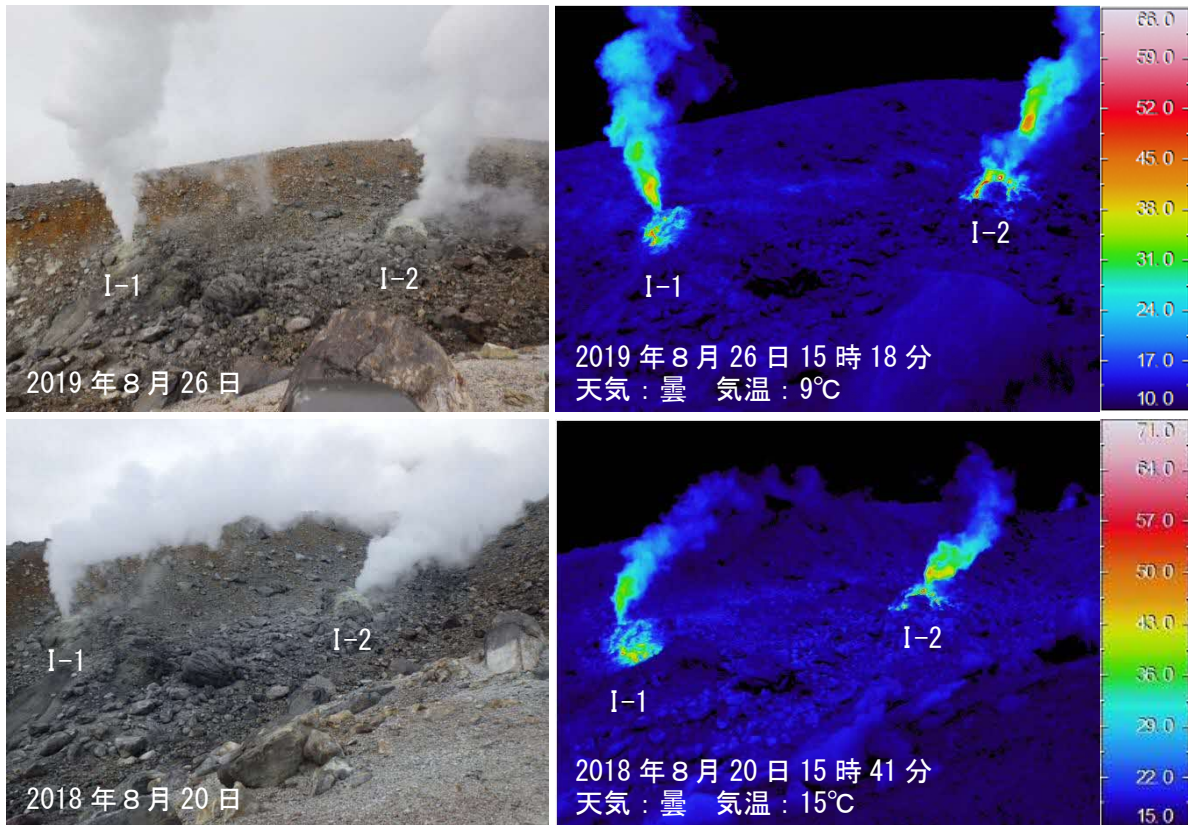


図4 大雪山 赤外熱映像装置による I-1、I-2 噴気孔周辺の地表面温度分布
南西側（図2の②）から撮影
・地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

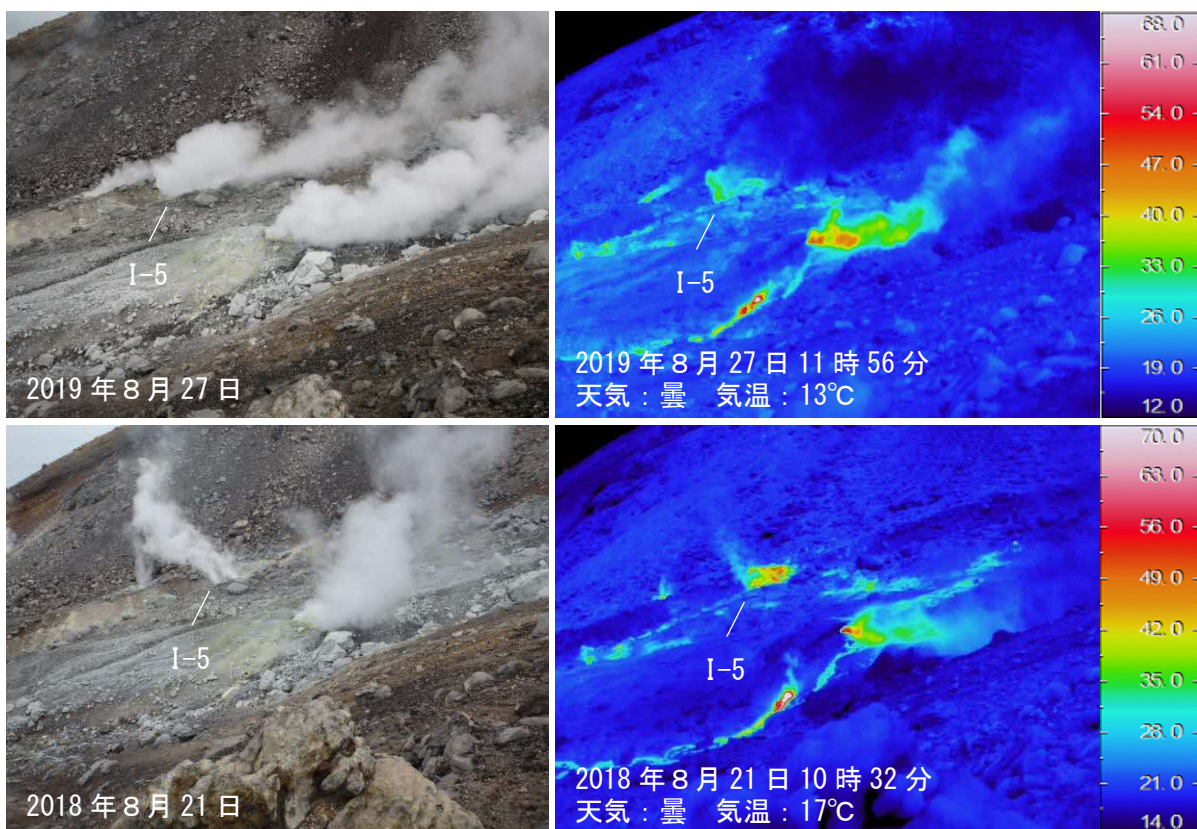


図5 大雪山 赤外熱映像装置による I-5 噴気孔群周辺の地表面温度分布
南側（図2の③）から撮影
・地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

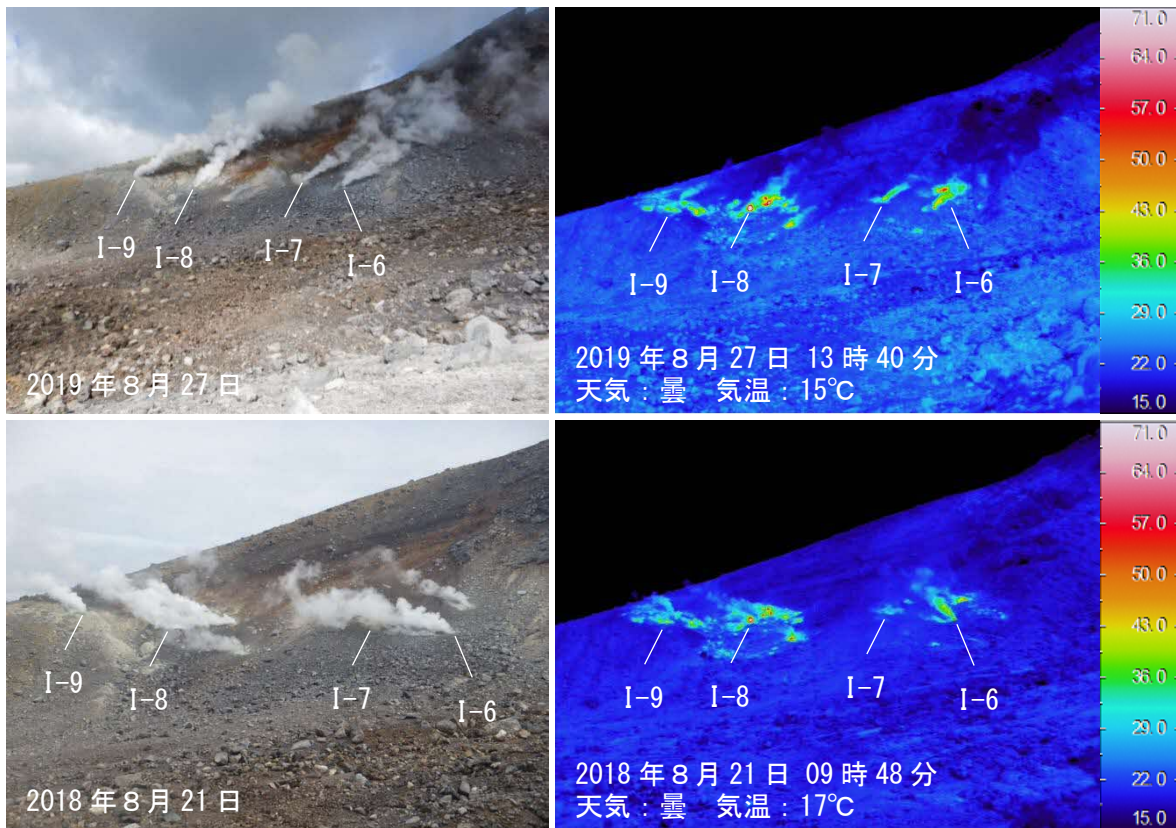


図6 大雪山 赤外熱映像装置によるI-6～I-9噴気孔周辺の地表面温度分布
南西側(図2の④)から撮影
・地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

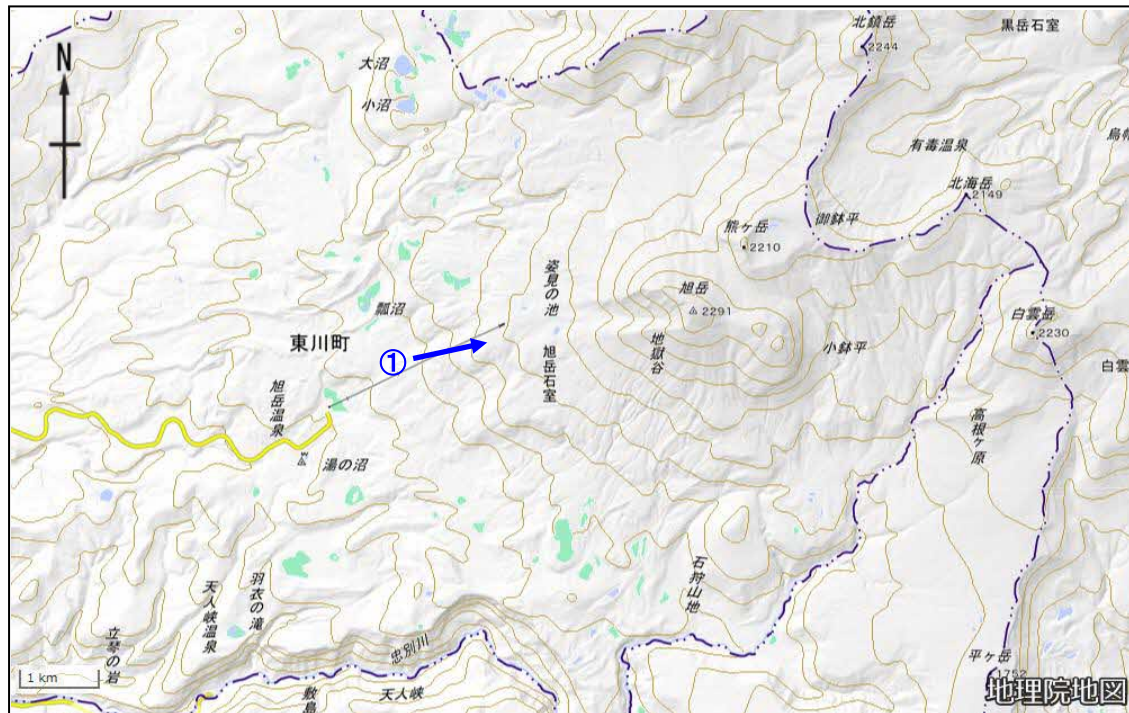


図7 大雪山 山体周辺図と写真の撮影方向（青矢印）

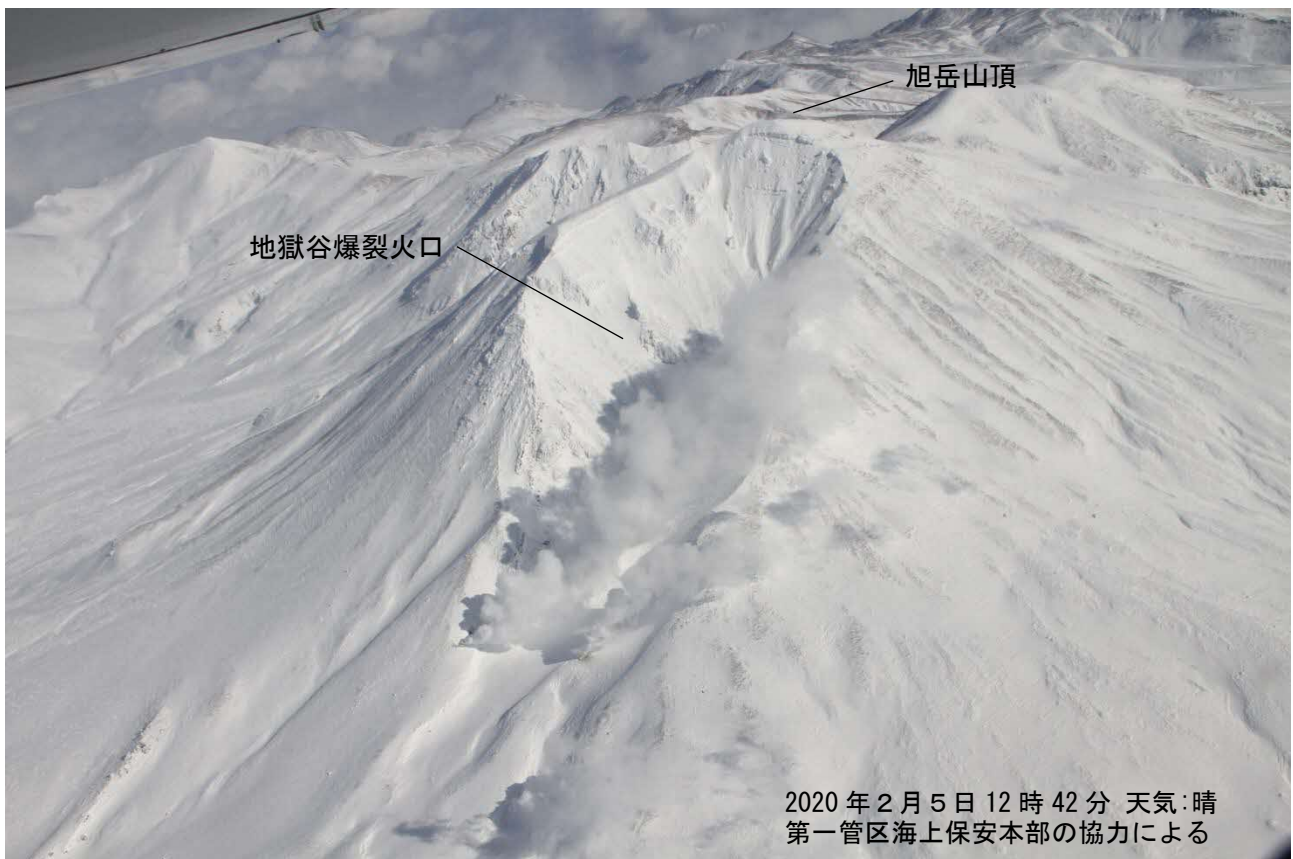


図8 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口全景
西側上空（図7の①）から撮影
・噴気の状況に異常は認められませんでした。



図9 大雪山 西側から見た旭岳の状況 (2020年5月31日、^{ちゅうべつ こ ひがし}忠別湖東監視カメラによる)

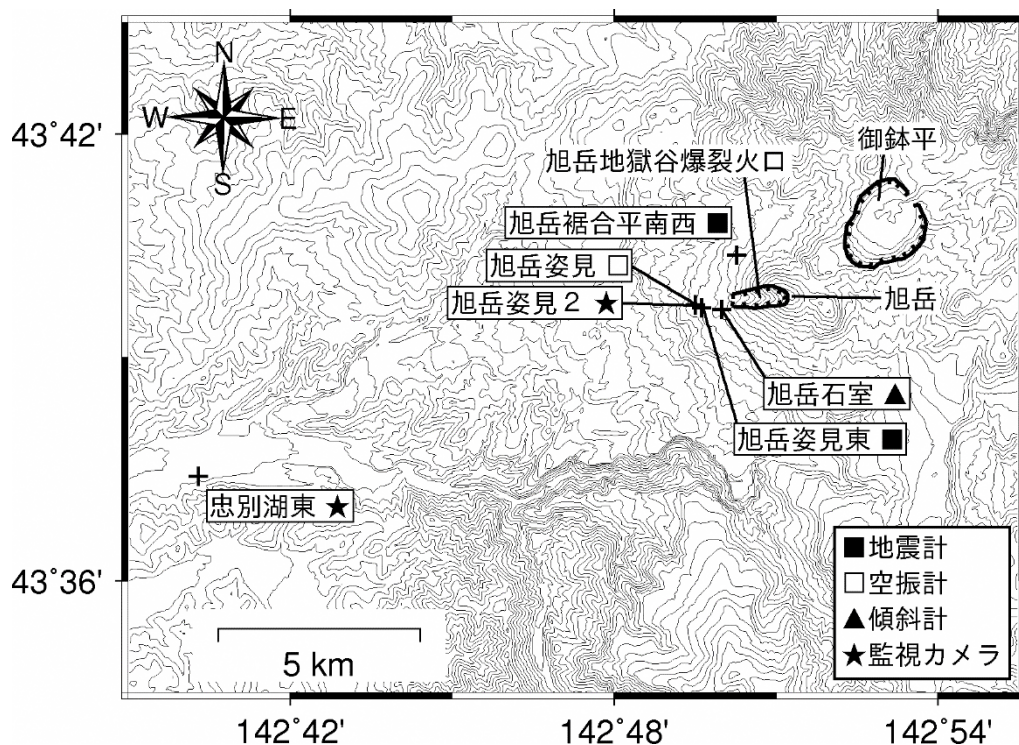


図10 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します。